

ピクテ・ファンド・ウォッチ 2022年1月28日

愛称 **バーゲンハンター**

ピクテ・ゴールデン・リスクプレミアム・ファンド

追加型投信 / 内外 / 資産複合

2021年12月の運用状況と今後の見通し

販売用資料
2022.1

ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」等をご覧ください。

●設定・運用は

ピクテ投信投資顧問

ピクテ投信投資顧問株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第380号
加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会
ピクテ投信投資顧問株式会社は、2022年7月1日付けで、商号を「ピクテ・ジャパン株式会社」に変更します。



バーゲンハンターの運用状況と今後の方針

運用状況

2021年12月30日の基準価額は12,217円となり、前月末比で330円上昇しました。なお基準価額は前月末比で+2.78%となりました。

2021年12月は、株式、金、為替ともにプラス寄与となりました。

主な投資行動の振り返り

2021年12月末の組入比率は、概ね前月末と同水準で維持しました。

2021年12月末の組入比率

株式	48.7%(+0.2%pt)
金	49.2%(-0.2%pt)
キャッシュ等	2.1%(+0.0%pt)

※括弧内は前月末比

市場環境

世界経済は着実に回復基調を辿っています。短期的にはオミクロン株の感染拡大による影響が懸念されるものの、家計の潤沢な貯蓄を背景とした潜在的な消費ニーズを考慮すると、当該影響は打ち消されるものと期待されます。

バリュエーション(投資価値評価)については、魅力的と思われる資産を見出すことは困難な状況です。

流動性については、米連邦準備制度理事会(FRB)が3月までに量的金融緩和を終了する方向であり、徐々に悪化することが予想されます。

今後の方針

現時点の基本資産配分(株と金を半分ずつ保有)にあわせたポートフォリオを構築しました。今後の運用方針については、引き続き魅力的なリスクプレミアムが期待できる資産クラスにアロケーションする運用を行います。

現在の世界の市場環境下においては、株式と金を半分ずつ保有する基本資産配分を維持する方針です。

※基準価額は1万口あたりで表示しています。基準価額は、実質的な信託報酬等控除後。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。

基準価額の推移

- バーゲンハンターの2021年12月30日の基準価額は12,217円となり、前月末比で330円上昇しました。なお、基準価額は前月末比で+2.78%、2021年年間で+11.04%となりました。

基準価額の推移

日次、期間：設定日(2020年6月26日)～2021年12月30日



※基準価額の推移は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。基準価額は1万口あたりで表示しています。※基準価額は、実質的な信託報酬等控除後。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

基準価額変動要因分析

- 2021年12月は、株式、金、為替がともにプラス寄与となりました。また、2021年年間で基準価額は、金がマイナス寄与となりましたが、株式と為替のプラス寄与が大きく+1,215円となりました。

基準価額変動要因分析

期間：設定日(2020年6月26日)～2021年12月末、単位：円

	2020年	2021年	設定来
基準価額(期末)	11,002	12,217	12,217
変動額	+1,002	+1,215	+2,217
債券	+0	+0	+0
株式	+854	+897	+1,751
金	+332	-229	+103
為替	-122	+684	+563
その他	-62	-138	-200

	2021年 1月	2021年 2月	2021年 3月	2021年 4月	2021年 5月	2021年 6月	2021年 7月	2021年 8月	2021年 9月	2021年 10月	2021年 11月	2021年 12月
基準価額(期末)	11,018	10,982	11,121	11,468	12,054	11,625	11,811	11,809	11,485	12,049	11,887	12,217
変動額	+16	-36	+139	+347	+586	-429	+186	-2	-324	+564	-162	+330
債券	+0	+0	+0	+0	+0	+0	+0	+0	+0	+0	+0	+0
株式	+49	+50	+225	+148	+68	+27	+37	+110	-208	+210	-47	+228
金	-60	-221	-302	+254	+440	-465	+234	-95	-198	+218	-65	+32
為替	+37	+146	+229	-45	+90	+21	-74	-5	+93	+148	-37	+81
その他	-10	-10	-12	-11	-12	-12	-11	-12	-11	-11	-13	-11

※データは過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。基準価額およびその変動額は1万口あたりで表示しています。

※「2021年」の「基準価額(期末)」は2021年年末の基準価額を表します。また、「2021年」の「変動額」は2020年年末の基準価額に対して2021年年末の基準価額がどの程度変動したかを表します。なお、「2020年」の変動額については設定日(2020年6月26日)の基準価額に対して2020年年末の基準価額がどの程度変動したかを表します。設定来は2020年6月26日～2021年12月30日。

ポートフォリオの状況(2021年12月末時点)

- 2021年12月末の組入比率は、現時点の基本資産配分(株と金を半分ずつ保有)にあわせて、株式、金ともに50%程度を維持しています。

投資対象別構成比

投資対象	当月末 構成比	前月末 構成比	増減
株式	48.7%	48.5%	+0.2%
金	49.2%	49.4%	-0.2%
債券	--	--	--
キャッシュ・短期 金融商品等	2.1%	2.1%	+0.0%
合計	100.0%	100.0%	--

指定投資信託証券の組入比率

	投資信託名	当月末 組入比率	前月末 組入比率
株式	1 グローバル・ユーティリティー ズ・エクイティ・ファンド	16.7%	16.6%
	2 新興国ハイインカム株式ファン ド	16.6%	16.7%
	3 世界株式ファンド	16.8%	16.3%
	4 先進国インカム株式ファンド	--	--
金	5 グローバル・グローイング・ マーケット・ファンド	--	--
	6 フィジカル・ゴールド・ファンド (為替ヘッジあり)	24.5%	24.7%
	7 フィジカル・ゴールド・ファンド (為替ヘッジなし)	24.6%	24.8%
債券	8 円インカム・セレクト・ファンド II	--	--
シキ ュア 等ツ	9 ショートタームMMF JPY	0.0%	0.0%
上場投資信託証券			
-	10 該当なし	--	--

※[投資対象別構成比]株式・債券は、株式または債券を主な投資対象とする投資先ファンドの株式・債券への投資比率と、各投資先ファンドの組入比率から計算しています。金は、金を主な投資対象とする投資先ファンドの組入比率です。キャッシュ・短期金融商品等は、当ファンドにおけるコール・ローン等の比率の他、株式、債券を主な投資対象とする投資先ファンドの預金等が含まれています。

※[指定投資信託証券の組入比率]今後変更となる場合があります。上記の中から投資する投資信託証券を選択するため、投資を行わないものもあります。各投資信託証券については、10ページの指定投資信託証券一覧をご覧ください。

※株式への投資と同様な効果を有する証券がある場合、株式に含めています。構成比は四捨五入して表示しているため、それを用いて計算すると誤差が生じる場合があります。※データは過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

資産配分比率決定の分析ポイント:4つの柱

	足元の見通し	注目点
1) マクロ経済分析	オミクロン株が景気回復を妨げる公算は小さい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 世界各国の景気指標 ✓ ピクテ独自のリスク回避度指数 ✓ 世界各国の問題 ✓ 政府や中央銀行の政策 <p style="text-align: right;">など</p>
2) 流動性分析	FRBが金融引き締めに変換する姿勢を強める	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中央銀行の資金供給量(累積ベース、流入ベース) ✓ マネーサプライ ✓ 民間の信用供与状況(銀行/ノンバンク) <p style="text-align: right;">など</p>
3) バリュエーション分析	魅力的と思われる資産を見出すことは困難	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 利回り水準比較 ✓ リスクプレミアム、株価収益率(PER(過去平均との比較)) ✓ 1株あたり利益(EPS(トレンド、修正状況)) ✓ 購買担当者景気指数(PMI)と各資産の比較 <p style="text-align: right;">など</p>
4) センチメント(テクニカル)分析	今後は流動性面の悪化が見込まれる	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ボラティリティの状況 ✓ オプション市場の歪み ✓ テクニカル(移動平均との比較/過去1年での最高値・最安値銘柄状況) ✓ 経済指標の予想値と公表値との乖離 <p style="text-align: right;">など</p>

マクロ経済分析～オミクロン株が景気回復を妨げる公算は小さい

- 世界経済は着実に回復基調を辿っており、ピクテでは2022年の世界のGDP成長率を4.8%と予想しています。
- 短期的にはオミクロン株の感染拡大による影響が懸念されるものの、家計の潤沢な貯蓄を背景とした潜在的な消費ニーズを考慮すると、当該影響は打ち消されるものと期待されます。

主要国・地域のGDP成長率実績とピクテ予想

前年比、%、市場予想は2021年12月13日時点

	2020年	2021年	2022年		(差異)
	実績	ピクテ予想	ピクテ予想	市場予想	
世界	-3.2	5.9	4.8	4.3	0.5
先進国	-4.8	5.0	4.7	3.9	0.8
新興国	-1.2	7.0	5.0	4.7	0.2
新興国(工業国)	-0.1	7.4	5.5	5.3	0.2
新興国(資源国)	-5.3	5.6	2.7	2.8	-0.1
アジア(除く日本)	-0.1	7.3	5.6	5.5	0.2
中南米	-6.1	6.5	2.3	2.0	0.4
欧州・中東・アフリカ	-2.6	5.8	3.9	3.6	0.3
米国	-3.4	5.7	5.6	3.9	1.7
ユーロ圏	-6.5	5.1	4.4	4.2	0.2
日本	-4.7	1.7	2.8	2.8	0.0
英国	-9.7	7.1	4.5	4.9	-0.4
スイス	-2.5	3.6	2.8	2.9	-0.1
ドイツ	-4.9	2.8	4.1	4.2	-0.1
フランス	-8.0	6.8	4.4	4.0	0.4
イタリア	-9.0	6.3	4.3	4.5	-0.2
スペイン	-10.8	4.4	5.1	5.8	-0.7
中国	2.0	8.1	5.0	5.3	-0.3
インド	-7.3	8.7	9.5	8.6	0.9
ブラジル	-4.4	4.8	0.8	1.0	-0.2
ロシア	-2.9	4.5	3.0	2.5	0.5

※市場予想は2021年12月13日時点のブルームバーグコンセンサス予想を使用
 ※(差異)は2022年のピクテ予想と市場予想の差異
 出所:CEIC、リフィニティブ・データストリームのデータを使用しピクテ・アセット・マネジメント作成

主要国・地域のインフレ率実績とピクテ予想

前年比、%、市場予想は2021年12月13日時点

	2020年	2021年	2022年		(差異)
	実績	ピクテ予想	ピクテ予想	市場予想	
世界	1.8	3.3	3.7	3.3	0.4
先進国	0.7	3.2	3.7	2.9	0.8
新興国	3.1	3.4	3.8	3.8	0.0
新興国(工業国)	3.2	2.5	3.5	3.4	0.1
新興国(資源国)	2.8	6.3	4.8	3.4	1.3
アジア(除く日本)	2.7	1.8	2.7	2.7	0.0
中南米	3.1	7.2	4.2	5.1	-1.0
欧州・中東・アフリカ	4.6	7.7	8.6	7.3	1.3
米国	1.2	4.7	5.2	3.8	1.5
ユーロ圏	0.3	2.6	2.7	2.4	0.3
日本	0.0	-0.3	0.7	0.7	0.0
英国	0.9	2.6	4.9	3.9	1.0
スイス	-0.7	0.6	1.6	0.7	0.9
ドイツ	0.4	3.3	2.8	2.6	0.2
フランス	0.5	2.1	1.9	2.0	-0.1
イタリア	-0.1	1.9	2.3	2.3	0.0
スペイン	-0.3	2.9	2.7	2.6	0.1
中国	2.5	0.9	2.2	2.2	0.0
インド	6.6	5.0	5.0	5.4	-0.4
ブラジル	3.2	8.5	6.0	5.8	0.2
ロシア	3.4	6.7	6.8	5.6	1.2

※市場予想は2021年12月13日時点のブルームバーグコンセンサス予想を使用
 ※(差異)は2022年のピクテ予想と市場予想の差異
 出所:CEIC、リフィニティブ・データストリームのデータを使用しピクテ・アセット・マネジメント作成

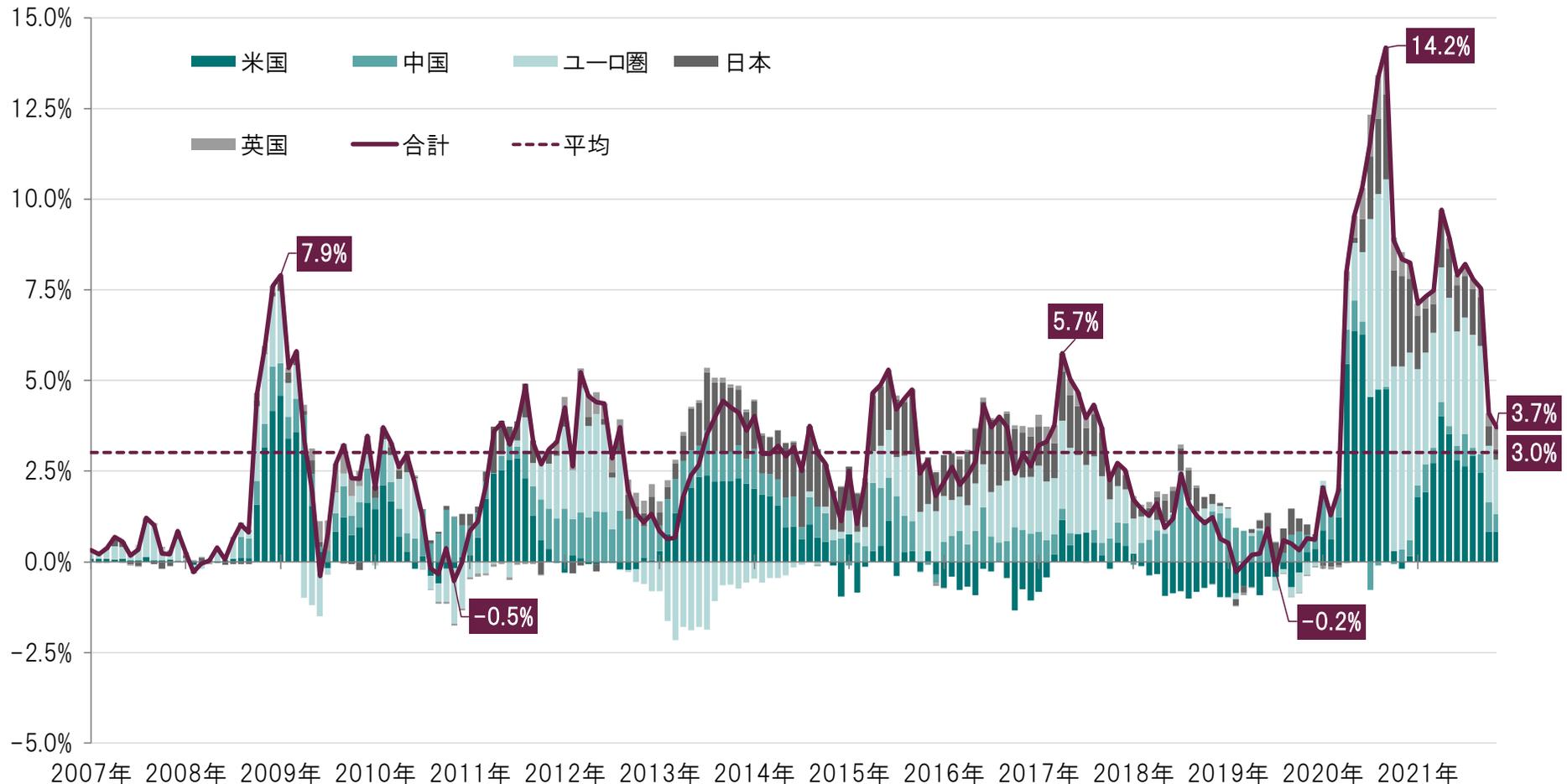
データは過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により、当資料記載の内容が変更される場合があります。

流動性分析～FRBが金融引き締めに変換する姿勢を強める

- 米国では、FRBが急騰するインフレの抑制を図って金融引き締めに変換する姿勢を強めていることから流動性が縮小しています。

主要国・地域の中央銀行の流動性フロー

月次、期間：2007年1月～2021年11月、6ヵ月移動平均、対名目GDP



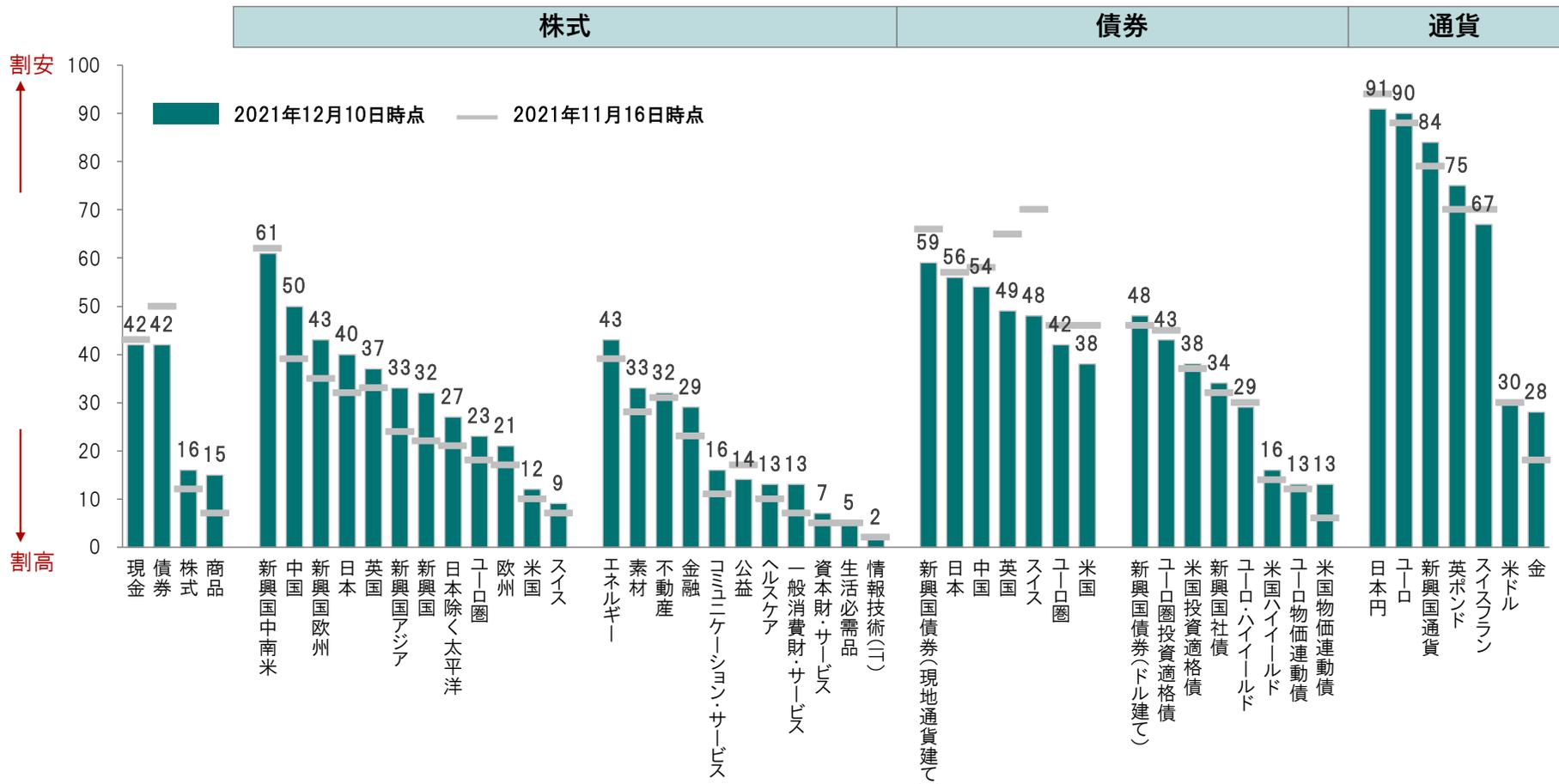
※流動性フローは中央銀行の資金供給量(流出入ベース)より算出
出所：リフィニティブ・データストリームのデータを使用しピクテ・アセット・マネジメント作成

データは過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により、当資料記載の内容が変更される場合があります。

バリュエーション分析～魅力的と思われる資産を見出すことは困難

- バリュエーションについては、全般に高止まりが続いており、魅力的と思われる資産を見出すことは困難な状況です。

各資産のバリュエーション、過去平均(20年)から見た水準



※株式: 株価純資産倍率(PBR)、12ヵ月先株価収益率(PER)、1株あたり利益トレンドベース株価収益率(PER)、株価売上高倍率(PSR)、PEGレシオ、株式リスクプレミアム(先進国のみ) 現金および債券: 利回り一名目GDPトレンド 商品: プルーフバークス・スポット価格インデックス/世界インフレ率 通貨: PPP(購買力平価)からのかい離 金: スポット価格/米国消費者物価指数 物価連動債: 物価連動債利回り-実質GDP成長率 現地通貨建て新興国債券: 利回り-消費者物価指数などをもとに算出 出所: リフィニティブ・データストリームのデータを使用しピクテ・アセット・マネジメント作成

データは過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により、当資料記載の内容が変更される場合があります。

センチメント分析～今後は流動性面の悪化が見込まれる

- 流動性は、FRBが3月までに量的金融緩和を終了する方向であり、徐々に悪化することが予想されます。ピクテでは、リスク性資産に対する小幅に強気のスタンスを維持していますが、流動性が枯渇する場合には、ポートフォリオのリスクを縮小することを検討しています。

ピクテ流動性、センチメントインデックス

日次、期間:2018年12月31日～2021年12月31日



※世界株式:MSCI ACWI 株価指数(ドルベース) ※ピクテ流動性、センチメントインデックスは流動性供給量や世界株式の予想PER等を使用し、ピクテ独自に算出
出所:リフィニティブ・データストリーム、ピクテ・アセット・マネジメントのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

データは過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により、当資料記載の内容が変更される場合があります。

指定投資信託証券一覧

	名称	当資料における略称	報酬率 ^(注)
1	PGSF グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド	グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド	管理報酬等合計：純資産総額の年率 0.6%
2	PGSF 新興国ハイインカム株式ファンド	新興国ハイインカム株式ファンド	管理報酬等合計：純資産総額の年率 0.6%
3	ピクテ世界株式ファンド(適格機関投資家専用)	世界株式ファンド	信託報酬：純資産総額の年率 0.66%(税抜 0.6%)
4	PGSF 先進国インカム株式ファンド	先進国インカム株式ファンド	管理報酬等合計：純資産総額の年率 0.6%
5	PGSF グローバル・グローイング・マーケット・ファンド	グローバル・グローイング・マーケット・ファンド	管理報酬等合計：純資産総額の年率 0.6%
6	ピクテ円インカム・セレクト・ファンドⅡ(適格機関投資家専用)	円インカム・セレクト・ファンドⅡ	信託報酬：純資産総額の年率 0.66%(税抜 0.6%)
7	ピクテ(CH)プレシャス・メタル・ファンド-フィジカル・ゴールド クラス HI dy JPY	フィジカル・ゴールド・ファンド (為替ヘッジあり)	管理報酬等合計：純資産総額の年率 0.39%(上限)
8	ピクテ(CH)プレシャス・メタル・ファンド-フィジカル・ゴールド クラス I dy JPY	フィジカル・ゴールド・ファンド (為替ヘッジなし)	管理報酬等合計：純資産総額の年率 0.34%(上限)
9	ピクテ-ショートターム・マネー・マーケット JPY	ショートタームMMF JPY	管理報酬等合計：純資産総額の年率 0.3%(上限)
10	金融商品取引所に上場(これに準ずるものおよび上場予定等を含みます。)されている投資信託証券	上場投資信託証券	銘柄毎に異なるため表示することができません。

(上記1,2,4,5はルクセンブルグ籍外国投資信託の受益証券、3,6は内国証券投資信託の受益証券、7,8はスイス籍外国投資信託の受益証券、9はルクセンブルグ籍外国投資法人の投資証券です。“PGSF”は「ピクテ・グローバル・セレクト・ファンド」の略称です。)

(注)報酬率は各指定投資信託証券の純資産総額に対する年率を表示しています。なお、7,8については申込み・買戻し時に取引コスト相当額が申込価格に付加または買戻価格から控除され、当該ファンドの信託財産に留保されます。

※上記の内容は、今後変更される場合があります。また、上記の中から投資する投資信託証券を選択するため、投資を行わないものもあります。

基準価額の変動要因

- ファンドの基準価額は、実質的に組入れている有価証券等の価格変動等(外国証券には為替変動リスクもあります。)により変動し、下落する場合があります。
- したがって、投資者の皆さまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。

価格変動リスク、信用リスク

- ファンドは、実質的に株式を投資対象としますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている株式の価格変動の影響を受けます。株式の価格は、政治経済情勢、発行企業の業績・信用状況、市場の需給等を反映して変動し、短期的または長期的に大きく下落することがあります。
- ファンドは、実質的に金に投資しますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている金の価格変動の影響を受けます。
- ファンドは、実質的に公社債を投資対象としますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている公社債の価格変動の影響を受けます。一般的に金利が低下した場合には、公社債の価格は上昇する傾向がありますが、金利が上昇した場合には、公社債の価格は下落する傾向があります。
- ファンドは、実質的にデリバティブ取引を行うことがありますので、この場合ファンドの基準価額は当該デリバティブ取引の価格変動の影響を受けます。
- ファンドは、実質的にリートを投資対象としますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れているリートの価格変動の影響を受けます。
- 有価証券の発行体の財務状況等の悪化により利息や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなる(債務不履行)場合、または債務不履行に陥ると予想される場合には当該有価証券の価格が下落することがあります。

為替に関するリスク・留意点

- 実質組入外貨建資産について、為替ヘッジを行わない場合には、係る外貨建資産は為替変動の影響を受け、円高局面は基準価額の下落要因となります。
- また、部分的に為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるのではなく、為替変動の影響を受ける場合があります。また、円金利がヘッジ対象通貨の金利より低い場合、当該通貨と円との金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。

カントリーリスク

- ファンドが実質的な投資対象地域の一つとする新興国は、一般に政治・経済・社会情勢の変動が先進諸国と比較して大きくなる場合があり、政治不安、経済不況、社会不安が証券市場や為替市場に大きな影響を与えることがあります。その結果、ファンドの基準価額が下落する場合があります。
- 実質的な投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化により証券市場や為替市場等に混乱が生じた場合、またはそれらの取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落することや運用方針に沿った運用が困難となる場合があります。この他、当該投資対象国・地域における証券市場を取り巻く制度やインフラストラクチャーに係るリスクおよび企業会計・情報開示等に係るリスク等があります。

流動性リスク

- 市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、機動的に有価証券等を売買できない場合があります。このような場合には、当該有価証券等の価格の下落により、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。市場規模や取引量が小さい資産については流動性リスクが高まりやすくなります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

お手続きと費用

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める1円または1口(当初元本1口=1円)の整数倍の単位とします。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。
購入・換金の申込不可日	以下の日においては購入・換金のお申込みはできません。 ①ルクセンブルグ、ジュネーブ、ロンドンもしくはニューヨークの銀行の休業日、ニューヨーク証券取引所の休業日、ロンドン証券取引所の午後休業日または12月24日 ②一部解約金の支払い等に支障を来すおそれがあるとして委託会社が定める日
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口換金には制限を設ける場合があります。
信託期間	2020年6月26日(当初設定日)から無期限とします。
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には信託が終了(繰上償還)となる場合があります。
決算日	毎年6月25日(休業日の場合は翌営業日)とします。
収益分配	年1回の決算時に、収益分配方針に基づき分配を行います。 ※ファンドには収益分配金を受取る「一般コース」と収益分配金が税引後無手数料で再投資される「自動けいぞく投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	3.3% (税抜3.0%)の手数料率を上限として、販売会社が独自に定める率を購入価額に乗じて得た額とします。 (詳しくは、販売会社にてご確認ください。)
信託財産留保額	ありません。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用(信託報酬)	毎日、信託財産の純資産総額に年 1.1275% (税抜1.025%)の率を乗じて得た額とします。 [運用管理費用(信託報酬)の配分(税抜)] 委託会社:年率0.35% 販売会社:年率0.65% 受託会社:年率0.025%
投資対象とする投資信託証券	純資産総額の最大年率 0.66% (税抜0.6%)(上場投資信託証券を除く) (各投資先ファンドの報酬率につきましては投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。上場投資信託証券につきましては銘柄毎に異なります。上記の報酬率は今後変更となる場合があります。)
実質的な負担	概算で最大年率 1.7875% (税抜1.625%)程度 (注)ファンドは市場環境により積極的に組入比率の見直しを行いますので、実際の投資信託証券の組入状況により変動します。
その他の費用・手数料	毎日計上される監査費用を含む信託事務に要する諸費用(信託財産の純資産総額の年率 0.055% (税抜0.05%)相当を上限とした額)ならびに組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等および外国における資産の保管等に要する費用等(これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。)は、そのつど信託財産から支払われます。投資先ファンドにおいて、信託財産に課される税金、弁護士への報酬、監査費用、有価証券等の売買に係る手数料および借入金の利息等の費用が当該投資先ファンドの信託財産から支払われることがあります。

※当該費用の合計額については、投資者の皆さまがファンドを保有される期間等に依りて異なりますので、表示することができません。



委託会社、その他の関係法人の概要、収益分配金に関する留意事項

委託会社	ピクテ投信投資顧問株式会社(ファンドの運用の指図)
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社(ファンドの財産の保管および管理)
販売会社	販売会社については下記のホームページをご照会ください。 (募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求受付ならびに収益分配金、償還金および一部解約代金の支払い等)

ピクテのファンドや投資環境等に関する情報やセミナーについてより詳しく知りたい方は下記へアクセスください。



[ピクテのホームページ]
<https://www.pictet.co.jp>



[ピクテ主催の各種セミナー・イベント等]
<https://www.pictet.co.jp/seminar.html>



収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

当資料をご利用にあたっての注意事項等

● 当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。● 投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様は投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。● 運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。● 当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。● 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。● 当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。● 投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。● 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。● 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。● 当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。● MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

お申込みの際は必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」等をご覧ください。



販売会社一覧

【投資信託説明書(交付目論見書)等のご請求・お申込先】(2022年1月21日現在)

商号等			加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
静銀ティーエム証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第10号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社四国銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第3号	○			
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○		○	